

青森県立中央病院 がん診療センター

令和8年3月15日発行

Contents

- P1 ごあいさつ
- P2 「けんみん公開講座
～進歩するがん医療第3弾～」報告
- P4 公認心理師について

しかへでけ
NO. 6

* ごあいさつ

婦人科癌の最新の治療 ～ 子宮体癌について ～ 産婦人科 部長 三浦 理絵



婦人科の3大がん、というと、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌ですが、中でも最も罹患数が多いのが子宮体癌です。日本における子宮体癌の罹患数はこの20年で大きく増加しています(図1)。

増加している子宮体癌に対して、当院では早期の患者さんにはより低侵襲に、進行・再発の患者さんにはより集学的で個別化した適切な医療を提供できるような体制づくりを行っています。

早期の子宮体癌では手術が治療の中心となります。当院では、ガイドライン上推奨されている範囲の早期子宮体癌の患者さんには、体への負担が少ないロボット支援下手術を積極的に行っています(図2)。ロボット手術は精密な操作が可能で、出血量の減少や術後疼痛の軽減、回復の早さが特徴で、入院日数が5-6日と短期間となっております。当院のロボット手術件数は年々増加傾向です。

一方で、進行・再発患者さんの場合には手術だけでなく薬物療法や放射線療法を組み合わせ

た集学的治療を行っています。子宮体癌は長らく薬物療法の選択肢が少ない癌でしたが、近年はこれまで中心だった抗がん剤治療に加え、「免疫チェックポイント阻害剤」や「分子標的薬」の組み合わせが登場しています。こうした最新の治療を選ぶ上で重要なのが「遺伝子検査」です。子宮体癌では例えば「ミスマッチ修復」という仕組みの異常の有無などを調べて免疫療法や分子標的薬の選択をしており、必要な患者さんには情報提供及び検査を行っています。さらに、再発を予防する目的の維持療法も一般的となっており、長く治療を続けることで予後の改善が期待できます。積極的がん治療に加えて、複数の薬物治療や長期の維持療法の副作用対策、手術によるホルモンバランスの変化に対するホルモン補充療法など、生活の質の維持にも対応できる体制を心がけており、がん診療センターの先生方やサポーターブケアチームにもご協力いただいています。産婦人科一同、患者さんの不安を軽減できるよう、最新の医療と丁寧な説明を大切にしながら診療して参ります(図3)。

図1

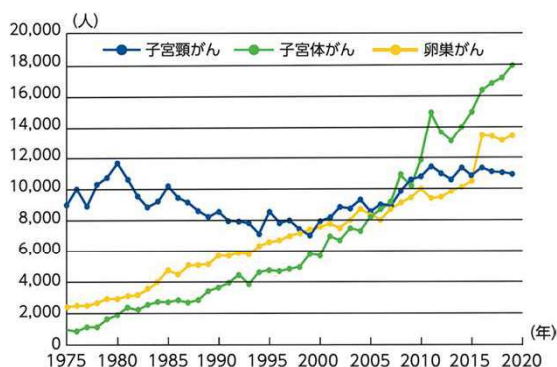


図2



図3 産婦人科一同



* 「けんみん公開講座 ～ 進歩するがん医療 第3弾 ～」報告

去る10月18日（土）に、「進歩するがん医療・第3弾」をテーマに、がん診療センターによるけんみん公開講座を開催しました。今回は、けんみん公開講座創設以来初の、青森市、八戸市の2会場開催となり、八戸市立市民病院の協力を得て行われました。

県内の医療系大学や専門学校の4校の大学生、専門学校生111名、また、12校の高校生64名の計175名が参加しました。

第1部の基調講演は、棟方副院長による「がん治療のフロントライン-特に薬物療法について」を2会場にオンラインで発信されました。その後2局に分かれ、青森会場では、青森県立中央病院認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師から、八戸会場では、八戸市立市民病院の消化器内科部長、がん専門看護師、理学療法士から取組み紹介があり、がん医療に携わる医療従事者の具体的な活動が示されました。

第2部では「参加して感じたこと・

思ったこと」をテーマにグループワークを行い、講演内容の振り返りと、医療職を目指す動機を共有し、和やかな雰囲気での交流が進んでいました。

講座の感想は、殆どの参加者から「良かった」、「研修内容が将来の夢に役に立つ」と回答をいただきました。その理由には「がんの治療方法についてどのような特徴があるのか学ぶことができた」「がんに対しての抵抗が減った」とあり、また、「がんの治療法がたくさんあるように医学の進歩について聞くことができ、より将来医師を目指したいと思った」という意見をいただきました。本講座の特徴であるグループワークに対し、「がんについていろいろな医療職の観点から話を聞くことがなかなか無いので、知識を深めることができた。」「自分では思いつかない視点からの質問があり、見識が広がった。」等の感想をいただきました。講座での学びは、県内の大学生、専門学校生、高校生の方の、『未来の自分を創るプロセス』の1つになったようです。

青森会場

* **進歩するがん医療**
「がん治療のフロントライン - 特に薬物療法について -」
 青森県立中央病院副院長 棟方 正樹
青森県立中央病院の取り組みの紹介
「放射線治療における看護師の役割」
 がん放射線療法看護認定看護師 鈴木 恵里子
「がん医療における薬剤師の役割」
 薬剤師 成田 芽生



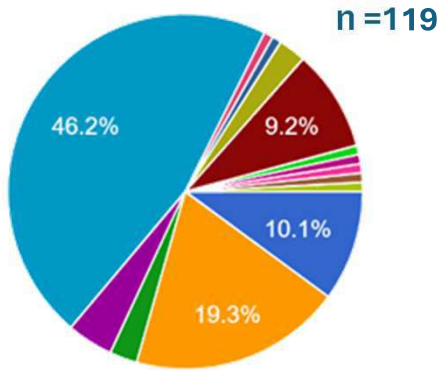
八戸会場

* **八戸市立市民病院の取り組みの紹介**
「大腸がんをめぐる最近の話題」 副院長兼消化器内科部長 沖 元二
「5年後、10年後に求められるがん看護の役割」
 がん看護専門看護師 越後 優子
「当院のがん患者へのリハビリの取り組み紹介 ～がんリハビリとは？～」
 理学療法士 川嶋 雄大



参加者へのアンケート結果や寄せられた感想は、次の通りです。

● 将来、就きたいと思う職種



- 医師
- 助産師
- 歯科医師
- 看護師
- 薬剤師
- 理学療法士
- 保健師
- 作業療法士

● 将来、がん医療に関わりたいと思いませんか。 n=119



● 将来、あなたは青森県で就職したいと考えていますか。 n=118



・自分の将来つきたい仕事について新しいことを知ることができ、いい機会になった。看護師の役割を知ることができて良かった。これからは活かしたい。



- ・他の学校の人々と一緒に勉強する機会が少ないので、興味深かったです。
- ・知らなかったことや初めて知ったことがたくさんあり、もっと深く看護、医療について知りたいと思うきっかけになったから。
- ・がん治療について大変でつらいイメージしかなかったが医療の進歩を感じ、がん治療についての理解と興味が深まった。参加してよかったと思った。



- ・個人的にグループで意見を共有して話し合うことでいろんな視点からの感想を知れてすごくいいと思いました。
- ・医療従事者の方々と直接話をする機会をいただけてとても自分にとって有意義な時間になりました。ありがとうございました！
- ・医師の方や看護師の方、理学療法士の方の色々な意見が聞けて楽しかった。
- ・質疑応答・グループワークでは自分では思いつかなかった疑問に対する答えをいくつも聞くことができた。



* 公認心理師について

当院における公認心理師の活動と役割について

臨床心理支援部 公認心理師 大平 大貴



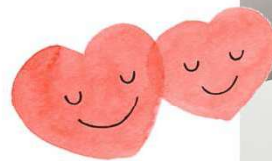
当院には臨床心理支援部という部署があり、常勤の公認心理師が10名在籍しています（2025年度時点）。公認心理師とは、2017年に施行された公認心理師法に基づく日本初の心理系国家資格であり、医療に限らず教育・福祉・司法・産業といった分野で活動しています。医療分野においては、施設基準や診療報酬算定要件に含まれることが年々増えており、活動の幅が広がっています。

総合病院における公認心理師の仕事の一つとして、からだの病気を抱える患者さんのこころのケアがあります。心理職に依頼や相談があり、患者さんから直接お話をきくこともあれば、カンファレンスに参加して情報を共有し、患者さんに起きていることや対応の工夫についてスタッフと一緒に考えるといった形で、間接的にかかわることもあります。話題となるテーマとしては、病気に伴う問題（病気にまつわる不安や恐怖、治療上のストレス）はもちろんですが、生活上の問題（身体機能の低下や治療に伴う制限、学業や仕事の調整、経済事情）、人間関係やコミュニケーションの問題（医療者や家族への遠慮やためらい、関係性がもたらす意思決定の困難さ）、人生や自己の存在価値に関する問題（役割変化への戸惑いや喪失感、生死に関する価値観）など、多岐にわたることが特徴です。これらは、医療の枠組みや社会資源・制度の利用で解決可能な問題と、解決が難しく決まった答えのない問題とに分けることができますが、心理職の役割としては、前者については適切な職種と連携をはかり、後者については

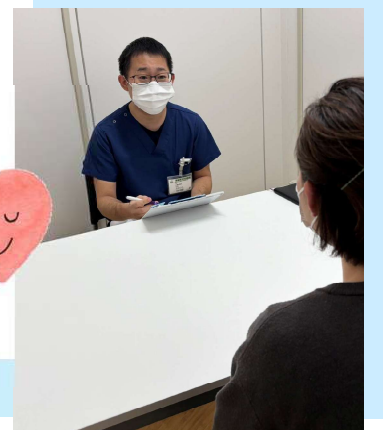
患者さんの苦悩に寄り添い、安心して表出できるように努めることで、本来のこころの力が維持・回復され、治療がスムーズにすすむことを目指しています。

こころのケアというと、深刻な悩みや苦しみを抱えたごく一部の患者さんに行う特殊な行為、というイメージをお持ちの方もいると思います。もちろんそういった場合に、専門的な技法（心理療法）を用いて、精神科とも時に連携しながら、心理職が継続してかかわることはありますが、むしろ重要なのは、そういった状態に至らないために、こころのケアが日常的に提供されることだと考えています。程度の差はあっても、こころのこと“も”気にかけてほしいという思いは、すべての患者さんに共通するニーズではないでしょうか。

がん患者さんとそのご家族には、サポートチームを介しての相談に加え、各診療科から心理職に直接相談することもできますので、心理職がおこなうこころのケア、日々患者さんと接しているスタッフがおこなうこころのケアの充実のために、今後ともご活用いただければと思います。



活動風景



* 編集後記

桜咲く、心弾む季節がやってまいりました。がん診療センターでは、子宮体癌など各種がんの診断・治療のほか、心理面のサポートや、若い世代へのPRなど、幅広く活動しております。「しかへでけ」は今号をもってリニューアルすることになりました。どうぞご期待下さい。(H.N)

●編集・発行 青森県立中央病院 がん診療センター

〒030-8553 青森県青森市東造道2丁目1-1 電話 017-726-8403（病院局運営部経営企画室）
ご意見・ご要望がございましたら、経営企画室までお寄せください。